# 臨床検査科支部会報
# ピペッツVol. 25

2004年10月20日発行
編集委員　清水のぞみ　　宮地なぎさ
　　　　　河内　佳子　　山上　宣克
編集発行　川崎医療短期大学同窓会（松丘会）
　　　　　臨床検査科支部
　　　　　〒701－0194　倉敷市松島316番地
　　　　　TEL　086－462－1111（内3025）
印　　刷　西日本法規出版㈱


## 卒業して30年、今思うこと


1期生
小郷　正則


卒業生の皆様はお元気で活躍のことと思います。お蔭様で母校である川崎医療短期大学は、社会の変遷にもまれながらも建学の精神を忘れることなく、教育機関としての役割を果たしています。

私は来年の３月で、卒業して30年になります。ここに「卒業して30年、今思うこと」と題しまして、私が知っている臨床検査科でのさまざまなことを綴ってみたいと思います。臨床検査科は、昭和48年（1973）４月に１期生33名（男５名、女28名）が入学を許可され、科として発足しました。早いもので、今年で32年目［32期生67名（男15名、女52名）］を迎え、また同窓会の臨床検査科支部が発足して、来年３月で30周年を迎えます。長いようで短くも感じられる30年でした。昨年度までの臨床検査科卒業生の総数は一千名を超え、実数1,433名となっています。この30年間という節目に際してその思い出を振り返り、今後の教訓にしたいと思います。

開学当初の臨床検査科の教育カリュラムは、非常に斬新なものでした。ユニークな点はいくつもありますが、その１つとして月・火曜日の午前中と木・金曜日の午後は、開設前の附属病院を中心とした学園内の片づけと床掃除のアルバイトを中心とした現場実習をあげることができます。厳しい訓練と実践のおかげで臨床検査技師の卵というより、清掃のプロに近いものとなり、その道でも食べて行けるぐらい教わりました。このことで何事にも集中して徹底的にやると言う精神力が養えたと感謝しています。清掃をすることで地下の剖検室から17階までの全ての部屋と廊下の掃除をしたため、附属病院の隅々まで知り尽くし、何がどこにどのようになっているかよく分かりました。そして附属病院は無事に昭和49年（1974）12月に開院しました。附属病院での実習は開院当初で色々な事情があり、学内での講義と実習は午後から始まり、夜遅くなることもしばしばでした。このアルバイト現場実習は、５期生まで続きました。

もう一つの印象深い特徴は、入学してからの２週間にわたる基礎実習（採量、天秤、器具の名称と洗浄、ガラス細工、ラジオキットの組立、木工及び最後の日に実習室の床掃除など）です。甘い大学生活を夢みて入学してきた我々新入生に、カルチャーショックを食らわせたのは最初の４日間でした。その中の天秤実習は現在のような電子天秤ではなく、化学天秤で、少しでも気を抜くと目盛りが振れて中々読み取れなく、試薬の一粒の大切を学びました。また、ガラス細工ではバーナーの微妙な火力調節ができないと作品ができたと思って、台の上に置くとガラスにひびが入り、T字管を吹いてみると空気もれ

で作品とならず、散々苦労しました。そのため最終日には夜遅くまで残り、作品の出来ばえと完成の喜びをしみじみ味わっていました。この基礎実習は、内容と日数は変わりましたが、現在でも入学当時の4月と9月末に分けて行っています。平成17年度からはさらに新規科目として基礎検査学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを設け、選択科目として各1単位を取得できるようになります。この中に入学前学習のフローアップとこの学ぶための基本的な技術の習得を目指しています。

本学は他学に比べて病院実習期間（2年生の4月～3年生の12月までの1年9カ月）が非常に長く内容が充実していることが特徴です。化学検査（当時はサンズとミニペットの時代）では200～300検体のサンプリングから測定までの一部に触れ、病理では剖検介助を多く経験し、切出から組織標本作製課程を体験することができました。特に3年生の課題研究室実習（応用実習）は一人の学生が5～6カ月間、指導教員についての研究補助、日常検査の補助を行ない、その成果を卒業前の1月末にまとめて発表するという実習方法は、一人の3年生が期間を4カ月に短縮して、27期生まで続きました。そして、28期生（平成14年）からは臨地実習Ⅰ（形態系）・Ⅱ（免疫化学系）・Ⅲ（病因生体系）・Ⅳ（生理機能系）と名前を変えて、一人8週間（7単位）と期間は短くなりましたが、短大、中検、病理および岡山川崎病院で以前の課題研究室実習の精神を引き継ぐものとして行っています。現在すべての学生が1演題を必ずまとめ発表する方法に変更し、12月末日まとめ発表会を実施しています。①短大部門では、『教えることは学ぶこと』という考えに基づき、1年生の実習補助体験から教育現場での基本的事柄を学ぶこと、さらに指導者の研究活動の補助的役割を果たし、研究の一端に触れることを教育目標としています。②臨床実習部門と岡山川崎病院部門では、『臨床検査技師実習』ともよび、何らかの領域を得意とするいわゆる『一芸に秀でた卒業生』を社会に送り出すこと、さらに指導者の研究活動の補助的役割を果たし、研究の一端を知ることを教育目標としています。

短大の学生として、附属病院の開設準備から初期段階の中央検査部と病院病理部での体験実習を通して得られたことが、また平成10年（1998年）4月～平成15年（2003年）3月にかけての5年間、中検での学生教育担当として新病院（西館）の中央検査部（検体検査部門と輸血部）の移転計画に参画でき、一生に二度もこのような大事業に携われた事はこのうえない喜びです。そこで、新中検移転の顛末の一部を紹介したいと思います。

1）オーダーリングマスター作製と試験管ラベル発行について

オーダーリングマスター作製は中検の誰もが経験したことのない作業課程の連続でした。このマスターには診療報酬に掲載されている検査項目はすべてオーダーできるようにすること、つまり院内検査項目も外注検査項目も一つのオーダー画面で依頼でき、検査部で検体の到着確認をするとそのまま自動分注機から自動分析に流れていき測定され、検査結果を報告するものです。用手法、外注検査も同じ流れです。

このオーダーリングマスターを作っていくのは大変な作業でした。そして、ほとんど完成近くになって、検体種別を同一検査項目の中で別々に分けなければならなくなりました。例えば、血清、尿、蓄尿、髄液、穿刺液などです。この変更は数週間にわたり、マスターの再編成にかかり放しになりました。また、そのオーダーから依頼され、発行される採血管ラベル、採取指示票と採取容器の組合せはとてつもない作業でした。例えば、容器名称はプレイン管（入7）、検査内容は茶プレ6、規定材料、採取量、固定検査項目、検査に必要な血清量などとどれ一つを変えても全てのマスターを変更しなくては



いけませんでした。これらの作業は現場の主任技師を中心に幾度も議論をして、やっと完成しました。採取ラベルの見本と採血管見本は図1、2のとおりです。

2）移動のための備品台帳の整理と移動先の確認作業について

新検査部の図面をにらみながら、分析装置の位置、作業台の位置、流しの位置、採血室・病棟からの検体搬送装置の位置、各部門に必要とする椅子など決めていきました。そして、医大生、短大生の実習場所の配置はルチンのそばではなく、学生専用の場所を確保することに決まりました（図33～37）。このように次から次と決まっていく中で、当初の計画を甘くみていたのかもしれないことが、引越しの予定日の数ヶ月前に勃発してしまいました。その一つは、現在使用の実験台は一部修理してすべて、新検査部に移動させるという決定でした。それまで、最低必要な実験台は新規に購入して、電源の引き込みから取り付け位置まで決めていましたのでそれをすべてキャセルして、日常の仕事をしながら実験台の移動修理をしなければいけなくなりました。これは大変な作業でした。新検査部に移動しても、当分の間、学生用の実験台が足らない状態になりました。

もう一つは、備品台帳と現物の照合がいくらしてもあわなかったことです。備品ラベルが年数の間に外れてわからなくなっていたり、医大と短大の備品が中検備品と一緒になっていたりしたためです。この備品に移動先のラベルと部門を貼り付け、引越し当日に間違いないように移動させるのは大変な作業でした。さらに、中検には検査用のコンピュータシステムと学生教育用のコンピュータが混在しているのも大きな要因です。また、移動後廃棄予定としていても当日には新部門に移動しているものも少なからずあり、最終的に備品台帳が完成したのは引越し後、数週間かかりました。この問題は将来、生理機能検査室が引越しするときにもつきまとうものと危惧しています。

3）検体搬送方法の工夫について（図3～8）

新中検（西館3階）への検体搬送システムは各階病棟および旧中検4階からボックストレベター（図7）を使用することが決まり、この箱の中にどのように検体を入れ、尿などがこぼれずに運搬できるか、なおかつこれにかかる諸費用を極力抑えるように工夫しました。今流行りの100円ショップを数ヶ所歩き、色々の容器を探している内に鉢入りフラワーを入れる駕籠容器を見つけることができました（図3、4）。この容器を半分に切り、一部を削りとると丁度尿コップを入れるのに適していたし、値段も一つ100円以下と安価の上丈夫に見えるので採用することとしました。採血管を立てる試験管立ては市販品の物を買うことになりました。また、メッセンジャーの人が病棟などから手で運ぶときに使用する容器も100円ショップで購入して採用することにしました（図3、4）。この尿コップ用の駕籠は学生が鋸とナイフで作成し、仕上げにサンドペーパーで磨いて作ってくれました。

平成14年（2002）9月13日（金）午後から16日（月）に掛けて新中検への引越しが行われました。この移動を手伝ってくれたアルバイト学生は28期生（3年生）と29期生（2年生）で16日の夕方にはシュミレションも無事終了し、連休明けの17日（火）の朝を迎えました。あれから、丸2年が立ち、懐かしい旧中検と新中検の写真を並べてみました（図9～32）。卒業生の皆さん、是非一度お立ち寄り下さい。ちなみに病院病理部と剖検室も新館（西館4階）に移動しています。

臨床検査科の教育課程は、指定規則の改正（大綱化）による新カリキュラムで平成12年4月1日（28期生）から施行されてきたところです。

平成17年度（2005）入学生よりこの一部を改正し、平成15年（2003）の臨床検査技師国家試験出題基

準（国家試験ガイドライン）の施行に伴い、科目名の整合性を図ると共に、基礎分野・専門基礎分野の選択科目の充実、授業内容の充実及び専門分野の科目名・単位数・履修年次の適正化を図り、チーム医療の担い手として、医療関連施設で活躍できる人間性豊かでより一層技能の優れた臨床検査技師の育成を目指していきます。また、医療系大学編入希望者及び他の資格希望者への対応も図ることとしました。さらに、平成18年度入学生からは高等学校の新指導要領で学んだ学生が入学してきます。これらの新入生にも対応できるようにしています。

卒業生の皆さんこの様に日々進歩している母校に限りない声援と協力をお願いします。また、多くの受験生（入学生）の紹介もよろしくお願いします。

３年前に岡臨技会長に就任した時、またこの度の教授昇任にさいして、同窓会支部より記念品を頂きありがとうございました。この紙面をおかりして、皆様方にお礼を申し上げますとともに健康に留意され、益々ご活躍されることを祈っております。



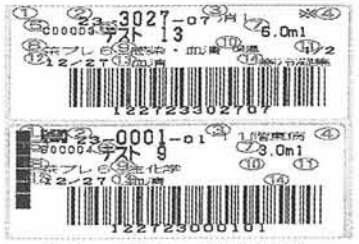


図１　採取ラベルの見本

図２　採血管ラベルと搬送用試験管立て

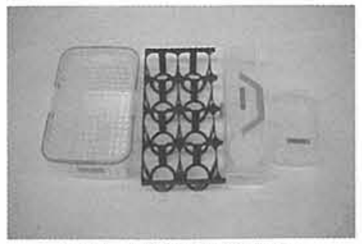


図３　搬送用各種容器

図４　搬送用ボックス

図５　病棟搬送用ボックス準備

図６　搬送された尿検体（廃棄する所）

図７　ボックストレベター（旧中検４階管理室）

図８　新中検（検体専用ボックストレベッター）

図９　旧中検（管理室入口）

図10　旧中検（患者受付）ー現在も使用中

図11　旧中検（検体受付）

図12　旧中検（RI 検査室）

図13　旧中検（引越し中ー輸血部窓側から）

図14　旧中検（引越し中ー輸血部から）

図15　旧中検（引越し後の検体受付）ー2004.９.27

図16　旧中検（引越し後の一般検査）ー2004.９.27

図17　新館（西病棟）ー３階中検、４階病理

図18　新中検（管理室と検体検査入口）

図19　新中検（検体受付と免疫生化学検査）

図20　新中検（免疫生化学検査）

図21　新中検（免疫生化学検査）

図22　新中検（引越し間際の免疫生化学）

図23　新中検（血液検査・一般検査）

図24　新中検（凝固検査）

図25　新中検（検査情報室）

図26　新中検［輸血部（貯血室）］

図27　新中検（輸血検査）

図28　新中検（遺伝子検査室）

図29　新中検（微生物検査室）

図30　新中検（洗浄室・冷蔵庫）

図31　新病院病理部（引越中）

図32　新病院病理部（業務開始間際）2002.9.19

図33　新中検（学生指導室）2004.9.21

図34　新中検（引越間際の学生実習机）2002.9.16

図35　新中検（引越間際の臨地実習・28期生）2002.10.9

図36　新中検（検体検査実習・30期生）2004.6.16

図37　新中検（臨地実習・30期生）2004.9.21

図38　新中検（微生物実習・30期生）2004.9.21

図39　新病理（細胞診実習・29期生）2002.10.9

図40　新中検（管理室から廊下：左右に物入）



# 川崎医療短期大学　短報

川崎医療短期大学
所司　睦文

1．2005年４月に新学科・医療保育科（Department of Nursing Childcare：NC）を開設するため、現在、許可申請中です。医療保育科は、日本初の医療の知識を持つ保育のプロ育成を目的として開設準備が進んでいます。就学期間は３年、募集定員70名を予定しています。

2．川崎医療短期大学が開学30周年を迎えたことを記念した川崎医療短期大学30周年記念誌（仮称）を作成することになり、現在、年内発行を目指し編集作業を行っています。

3．学科の枠組みを越え、第１回医療福祉教養講座が開催されます。これは川崎医療短期大学に在学中のすべての学生が出席し聴講できうる講座です。今回は2004年９月25日（土）10：30～12：00の日程で、重井医学研究所名誉所長沖垣達先生を講師に迎え、「国際社会に生きる－これからの医療と福祉を求めて－」というテーマでご講演いただきます。

4．川崎学園学園祭は2004年10月16日（土）・17日（日）に開催されます。臨床検査科学生も教職員も学園祭関連行事に積極的に参加します。

5．学園祭初日の2004年10月16日（土）10：00～11：30には、川崎医療短期大学体育館102号教室において平成16年度第２回川崎医療短期大学公開講座「骨粗しょう症はどうして起こるの？－骨から磨く長寿の秘けつ－」を開催します。参加は無料ですので、奮ってご参加下さい。

6．学校教育法の改正により、平成16年度から各大学・短期大学は教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況について、文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（第３者評価）を定期的に受けることになりました。今後、この第３者評価を川崎医療短期大学も受けることになります。

7．2004年度の入試日程は、特別推薦入試は2004年10月23日（土）、推薦入試は2004年11月13日（土）、一般入試前期は2005年１月28日（金）、一般入試後期は2005年３月17日（木）です。臨床検査科はすべての入学試験で学生を募集します。

8．川崎医療短期大学ホームページをご覧下さい。

http：//www.kawasaki–m.ac.jp/jc/home/index.html

川崎医療短期大学の情報満載です。学科・カリキュラム・入試情報はもとより、学報も閲覧可能です（但し Adobe Acrobat (R) Reader が必要です）。

# 松丘会臨床検査科支部　平成16年度　第１回代表者会資料

日　時：平成16年６月26日（土）
場　所：川崎医療短期大学体育館１階講義室

**議題１．平成15年度事業報告**

1）学生との交流会
　　ボーリング大会および学生との交流会
2）国家試験対策（H15. 12. 1～16. 2. 14）
3）PIPETTS の出版について（23、24号）
4）中四国学会時の同窓会の開催（岡山支部）
5）同窓会ホームページについて
6）各期の同窓会開催への援助（19期、21期、27期）
7）その他

**議題２．平成15年度決算報告**

資料参照

**議題３．平成16年度事業計画**

1）学生との交流会
　　ボーリング大会および学生との交流会
2）国家試験対策
3）PIPETTS の出版について（25、26号）
4）中四国学会時の同窓会の開催（広島支部）
5）同窓会ホームページについて
6）各期の同窓会開催への援助
7）その他

**議題４．平成16年度予算案**

資料参照

**議題５．報告事項**

○役員交代（資料参照）
　• 新規：29期生代議員－代表者：米、本部役員：石川
　• 交代：４期生　代表者　野田→荻原
○短大より
○その他

議題６．意見交換

• 30周年記念事業について
• 短大　小郷教授就任祝いについて
• 任期満了に伴う役員（理事）交代について
• 駐車場料金について



# 川崎医療短期大学（松丘会）臨床検査科支部　会計報告（15年度）

自　平成15年４月１日
至　平成16年３月31日

（収入の部）

| 項　目 | 予算額 | 収入額 | 差　異 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 入会金 | 320,000 | 245,000 | △75,000 | 29期生分(49名) |
| 同窓会費 | 594,800 | 534,000 | △60,800 | |
| 新入会費 | 320,000 | 245,000 | △75,000 | 29期生分(49名) |
| 10年会費 | 274,800 | 289,000 | 14,200 | 1期生(1名)3期生(1名)4期生(2名)8期生(22名)×7,000円<br>16期生(1名)17期生(1名)18期生(8名)22期生（1名）×5,000円 |
| 助成金（本部より） | 170,000 | 170,000 | 0 | |
| 寄付金 | 0 | 0 | 0 | |
| 預金利子 | 500 | 11 | △489 | |
| 雑収入 | 0 | 22,850 | 22,850 | ボーリング大会残金 |
| 前期繰越金 | 1,425,691 | 1,425,691 | 0 | |
| 収入合計 | 2,510,991 | 2,397,552 | △113,439 | |

（支出の部）

| 項　目 | 予算額 | 支出額 | 差　異 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 会議運営費 | 290,000 | 53,316 | 236,684 | |
| 代表者会運営費 | 100,000 | 24,726 | 75,274 | １回 |
| 理事会運営費 | 70,000 | 15,540 | 54,460 | １回 |
| 部局会運営費 | 70,000 | 13,050 | 56,950 | 事務（１回）、学術企画（１回）、行動費 |
| 各種委員会費 | 50,000 | 0 | 50,000 | |
| 事務費 | 340,000 | 81,057 | 258,943 | |
| 通信費 | 200,000 | 17,510 | 182,490 | 切手、ハガキ、テレホンカード |
| 消耗品費 | 100,000 | 10,577 | 89,423 | インクカートリッジ、ラベル用紙、フロッピー、CD-R |
| 振込手数料 | 10,000 | 2,570 | 7,430 | 郵便振込手数料 |
| 印刷費 | 30,000 | 50,400 | △20,400 | 振り込み用紙 |
| 会誌発行費 | 900,000 | 336,870 | 563,130 | ピペッツ23号 |
| 印刷費 | 600,000 | 214,200 | 385,800 | |
| 発送費 | 300,000 | 122,670 | 177,330 | |
| 慶弔費 | 30,000 | 0 | 30,000 | |
| 援助金 | 425,000 | 222,420 | 202,580 | |
| 卒業時援助金 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 各期援助金 | 150,000 | 45,000 | 105,000 | 19期生、21期生、27期生 |
| 地域支部援助金 | 45,000 | 0 | 42,000 | |
| 在校生援助金 | 200,000 | 147,420 | 52,580 | ボーリング大会、国家試験対策 |
| 旅費交通費 | 50,000 | 0 | 50,000 | |
| 雑費 | 50,000 | 4,305 | 45,695 | 住所管理ソフト |
| | | | | |
| 積立金特別会計繰出 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 予備費 | 375,991 | 0 | 375,991 | |
| 支出合計 | 2,510,991 | 747,968 | 1,763,023 | |

収入合計－支出合計　　1,649,584

積立金特別会計（収入の部）

| 項　目 | 予算額 | 前年度予算額 | 差　異 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 一般会計からの繰入金 | 50,000 | 50,000 | 0 | 30周年記念事業 |
| 前期繰越金 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 合計 | 150,000 | 150,000 | 0 | |

積立金特別会計（支出の部）

| 項　目 | 予算額 | 前年度予算額 | 差　異 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 一般会計への繰出金 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | |

# 川崎医療短期大学（松丘会）臨床検査科支部　平成16年度予算案

自　平成16年４月１日
至　平成17年３月31日

（収入の部）

| 項　目 | 予算額 | 前年度予算額 | 差　異 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 入会金 | 260,000 | 320,000 | △60,000 | 5000×52名（30期） |
| 同窓会費 | 478,800 | 594,800 | △116,000 | |
| 　新入会費 | 260,000 | 320,000 | △60,000 | 5000×52名（30期） |
| 　10年会費 | 218,800 | 274,800 | △56,000 | （９期46名×7,000円、19期45名×5,000円）×0.4 |
| 助成金（本部より） | 170,000 | 170,000 | 0 | |
| 寄付金 | 0 | 0 | 0 | |
| 預金利子 | 100 | 500 | △400 | |
| 雑収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 前期繰越金 | 1,649,584 | 1,425,691 | 223,893 | |
| 収入合計 | 2,558,484 | 2,334,991 | 223,493 | |

（支出の部）

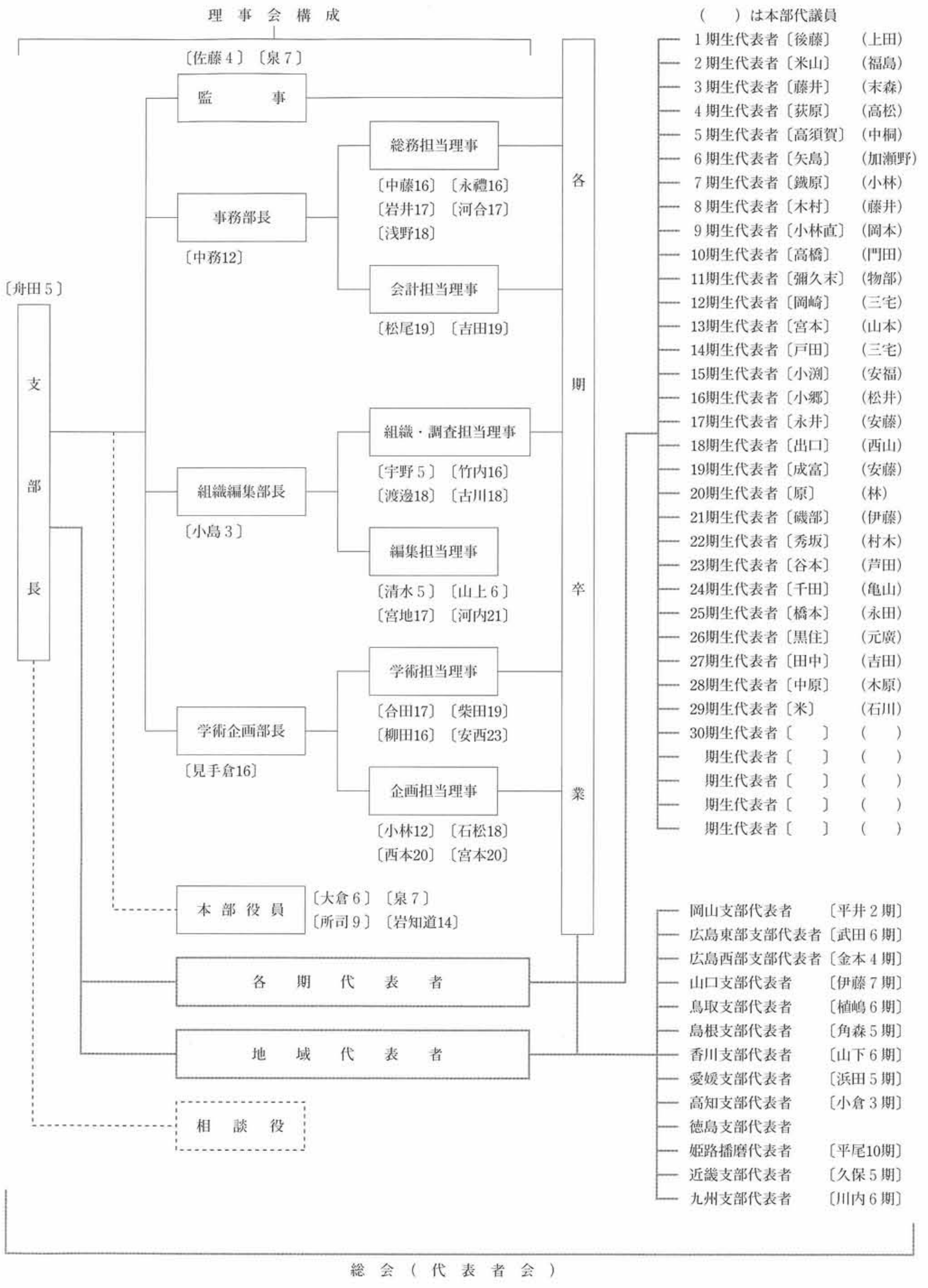
| 項　目 | 予算額 | 前年度予算額 | 差　異 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 会議運営費 | 290,000 | 290,000 | 0 | |
| 　代表者会運営費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 　理事会運営費 | 70,000 | 70,000 | 0 | |
| 　部局会運営費 | 70,000 | 70,000 | 0 | |
| 　各種委員会費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 事務費 | 340,000 | 340,000 | 0 | |
| 　通信費 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 　消耗品費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 振込み用紙、他 |
| 　振込手数料 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| 　印刷費 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 会誌発行費 | 900,000 | 900,000 | 0 | |
| 　印刷費 | 600,000 | 600,000 | 0 | ピペッツ24号、25号 |
| 　発送費 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 慶弔費 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 援助金 | 425,000 | 425,000 | 0 | |
| 　卒業時援助金 | 30,000 | 30,000 | 0 | 30期生 |
| 　各期生援助金 | 150,000 | 150,450 | 0 | |
| 　地域支部援助金 | 45,000 | 45,000 | 0 | |
| 　在校生援助金 | 200,000 | 200,000 | 0 | ボーリング大会、国試対策 |
| 旅費交通費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 雑費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 金庫 |
| 積立金特別会計繰出金 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 予備費 | 423,484 | 375,991 | 47,493 | |
| 支出合計 | 2,558,484 | 2,510,991 | 47,493 | |

積立金特別会計（収入の部）

| 項　目 | 予算額 | 前年度予算額 | 差　異 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 一般会計からの繰入金 | 50,000 | 50,000 | 0 | 30周年記念事業 |
| 前期繰越金 | 150,000 | 100,000 | 50,000 | |
| 合計 | 200,000 | 150,000 | 50,000 | |

積立金特別会計（支出の部）

| 項　目 | 予算額 | 前年度予算額 | 差　異 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 一般会計への繰出金 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | |



# 臨床検査科　組織運営図（平成16年４月１日現在）